

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「誠実明朗」「自主創造」「友情協力」の校訓のもと、明るく健康で、自らを高め、他人を尊重する、人間性豊かな人格の完成をめざす。生徒と教職員との信頼関係をもとにした専門教育を通じて、勤労と責任を重んじ、幅広い技術をそなえた社会人を育成する。

1. 基礎学力と専門的な技能・技術を修得し、社会の中で主体的に生きる力を育てる
2. 協調性、規範意識を身につけ、周囲から求められる社会人を育てる
3. 地域社会での存在意義を高め、生徒が誇りをもてる学校づくり

2 中期的目標

1. 社会の中で主体的に生きる力を育てる
 - (1) 基礎的・基本的な学力の育成
 - ア 授業での ICT 活用をすすめ、基礎学力の充実を図る
 - イ 授業改善を図るとともに、授業内容・授業形態の工夫により、確かな学力を身につけさせる
 ※ 進行率の大幅改善、卒業者数の拡大
 - (2) 資格取得を学習の核に据え、主体的に自己の将来を切り拓く能力を育成
 - ア 授業においても技能・資格取得を進め、学習意欲の喚起と、有用な技能修得を図る
 ※ 主要な資格について、毎年前年度を上回る人数が取得
 - (3) 在学中の就労を促進するとともに、多様な進路実現をサポートする
 - ア 未就労生徒に対し、個別指導と個別支援による就労促進をおこなう
 - イ キャリア教育、職業教育を充実させ、社会で自立できる力を育成する
 - ウ 正規就職を卒業生徒の7割以上、年度内内定率100%を目標とする
 ※ 学校斡旋就職希望者数の拡大と内定率の向上
2. 周囲から尊敬される社会人を育てる
 - (1) 授業規律の確立
 - ア 組織的な指導体制を確立し、良好な環境と授業規律の確立を図る
 ※ 良好な学習環境を実現し、生徒の満足度を向上
 - (2) 協調性や社会性の育成
 - ア 魅力ある学校行事、部活動を振興し、学校生活の魅力を高め、集団活動への参加促進を図る
 ※ 出席率の大幅改善と中途退学の防止
3. 誇りをもてる学校づくり
 - (1) 地域連携を進め、学校への高い評価を獲得
 - ア 生徒による地域活動の実施、公開講座の実施など、地域から見える、特色ある学校の取り組みの推進
 ※ 保護者アンケートにおいて、学校の特色ある取り組みへの認知度で高評価を得る
 - (2) 広報活動の充実により、学校の取り組みを広く周知
 - ア 学校ホームページの充実、地域自治会での広報などを積極的に展開する
 ※ 公開講座、学校見学会等への参加者の増加
 - (3) 人材育成により、優れた教育環境の提供
 - ア 生徒のニーズに合致した特色ある教育課程と優れた指導体制づくり
 ※ 教育課程の改革と意欲的な指導体制の確立

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分] | 学校協議会からの意見 |
|---|--|
| 学力の向上、授業改善に関して ・高評価(生徒)「評価の仕方や基準を示している(76.3%)」「学習で努力したことを認めてくれる(72.4%)」「教え方を工夫している先生が多い(72.0%)」 ・低評価(生徒)「授業で発表する機会がある(56.0%)」 ・昨年度より向上したが、生徒がより主体的となる授業の工夫を行う。 特色ある取り組みについて ・高評価(生徒)「進路についての情報を知らせてくれる(79.0%)」「他の学校にない特色がある(75.0%)」 ・高評価(保護者)「通知表が解りやすく工夫されている」 | 第1回(平成28年6月17日) ・教科書の選定基準で一番重視しているのは何か。 ・息子は本校に入り、目標を持って楽しそうに頑張っている。いろいろと心配はあるが、一安心しており学校には感謝している。 ・子どもはたまに休みながらも興味がある自動車のことを勉強でき、この学校に行って良かったと言っている。 ・生徒数の減少が気になる。他校の様子はどうか。 ・普通科の生徒では親の職業を知っていても、内容まで知らない生徒がいる。工科高校に通う生徒は仕事への意識が高い傾向にあると思う。 ・これから先、人の仕事がどんどん減ってゆくだらうと考えられる。このような社会では、IT関係とともに、コミュニケーション、ビジネスの能力がより大切になる。これらを見据えた教育をお願いしたい。 |

| | |
|---|--|
| <p>(100.0%)」「学校の生徒指導の方針に共感できる(100.0%)」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低評価(生徒)「他の学校などと交流する機会がある(58.1%)」「環境、国際理解、ボランティアなどについて学習する機会がある(55.4%)」「ホームページをよく見る(45.4%)」 ・専門科目など、特色ある学習や資格取得を通じての進路実現などキャリア教育の取り組みが評価されている。 ・他校との交流の取り組みなどが求められている。 <p>学校生活について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高評価(生徒)「自分の学級は楽しい(83.6%)」 ・低評価(保護者)「部活動が活発である(64.3%)」 ・学校生活については、生徒評価が7ポイント上昇したが、部活動をはじめ、学校の魅力を高める取り組みを強め、さらに学校生活の充実を図る。 <p>学校の指導に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高評価(生徒)「先生は協力し合っている(76.8%)」「先生は決まりや約束事を守っている(74.3%)」「先生は生徒の意見を聞いてくれる(74.7%)」「秘密を守ってくれる(76.7%)」 ・高評価(保護者)「先生は子どもの評価を適切・公平に行っている(100.0%)」「学校は保護者の相談に適切に応じてくれる(100.0%)」 ・教員が組織的に指導に当たっていることが十分伝わっており、今後も生徒の規範意識の育成や社会性の向上を図る指導にまい進したい。 | <p>第2回(平成28年10月28日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の試合を見に行ったが、用具が貧弱だった。安全にもかかわるので、個人負担で不足するものは学校の予算で配慮できないか。 ・今年度の求人状況はどうか。また、1回目で内定が出なかった生徒への指導はどうか。 ・生徒主体のアンケートでは、生徒に媚びる授業になってしまうのではないか。 ・女子生徒の割合はもっと増えないものか。 ・本校はしたいことがあって来る生徒が多いのではないか。仕事をしながら学校に通うということや、自動車について学びたいというような。そういうものがなければ、親はとりあえず全日制に通わせようと思う。だから本校はたとえ少人数でも、来た生徒を大切にしてほしい。 ・本校でいろいろな体験をし、人と出会う中で「生き抜く力」が身につくのではないかと思う。 <p>第3回(平成29年2月10日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者には定時制の学習内容がわかりにくい。また生徒が就職する企業例を知ればもっと入学生が来るのではないか。 ・中学生の保護者でも子どもの進路で悩んでいる人は多い。中学生の保護者に直接アピールする方法を考えた方がよいのではないか。 ・ゆったりと学ぶことができる定時制高校が向いている子どももいると思う。昔と違う落ち着いた定時制の良さをもっと知ってもらわなければならないか。 ・学校という場がよいコミュニティーなのは間違いなく、多くの人と交流できるので大きい意味がある。ただ、知識・教育・技量を積み込みすぎてもいけない。 ・生徒数の減少に対して、「お客」を見つける工夫が求められるのではないか。 ・今年度健康診断の受診率100%だったのは少人数の利点。小さい学校だからこそ、小さい利点を活かしていけばよい。少人数で仲の良い定時制はいい環境だと思う。最近は、小さい学校なりにまとまっているように感じる。 ・離島の医師の確保にテレビ・ドラマが一役買ったように、定時制の生徒の生活をテレビなどで知ってもらってはどうか。 |
|---|--|

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|------------------------|--|--|--|--|
| 1 社会の中で主体的に生きる力を育てる | <p>(1) 基礎的・基本的な学力の育成 ア 授業で効果的なICT活用をすすめ、基礎学力の充実を図る</p> <p>(2) 資格取得を学習の核に据え、主体的に自己の未来を切り拓く能力を育成 ア 授業においても技能・資格取得を進め、学習意欲の喚起と、有用な技能修得を図る</p> <p>(3) 正規就職の拡大 ア 個別指導と個別支援による就労指導</p> | <p>(1) ア①パッケージ研修の取り入れとともに、開講科目のすべての授業でICT活用授業を実施し、授業改善をすすめる ②授業において、確認テストを実施し、基礎の定着をめざす</p> <p>(2) ア①溶接技術、CAD、計算技術等、授業内容と関連した資格取得に関わる知識・技能指導を充実させる ②資格取得をめざした講習・個別指導を実施し、生徒個別の支援をおこなう</p> <p>(3) ア①キャリアコーディネータ等との連携による求人開拓、個別指導を継続的に強化し、卒業時に正規就職できるよう支援をおこなう</p> | <p>(1) ア①電子黒板機能・視聴覚教材を活用した授業の実施。(ICTを用いた授業が実施できているという生徒評価をH27年度の70.3%から75%以上とする) ②各教科で繰返し確認テストを実施し、単位取得者の増加をはかる。(授業が楽しく分かりやすいという生徒評価をH27年度の63.2%から67%以上とする)</p> <p>(2) ア①授業の一環として検定を実施、主な資格取得数の増加をはかる(資格取得者数50名以上) ②3級自動車整備士試験受験者、合格者の増加(受験者H27年度の4名から5名以上、合格者3名以上)</p> <p>(3) ア①生徒のニーズに合致した求人開拓 ②正規就職希望者卒業生徒の7割以上、年内内定率80%以上とする ③将来のキャリアを見通した進学の実現。進学志望生徒の合格率を100%とする</p> | <p>(1) ア①ICTを用いた授業が実施できているという生徒評価は78.6%となった(○) ②授業が楽しく分かりやすいという生徒評価は65.8%となった(△)</p> <p>(2) ア①資格取得者数はのべ47名となった(○) ②受験者数は4名、合格者は2名となった(△)</p> <p>(3) ア①生徒は希望通りの職種に就職している。(○) ②正規就職希望者卒業生徒の9割以上、年内内定率100%であった。(◎) ③進学志望生徒が進学を決定100%(○)</p> |

| | | | | |
|-------------------------------|---|---|--|--|
| <p>2 周囲から尊敬される社会人を育てる</p> | <p>(1) 授業規律の確立 ア 組織的な指導体制を確立し、良好な環境と授業規律の確立を図る</p> <p>(2) 協調性・社会性の育成 ア 学校生活の魅力を高め、集団生活への参加促進を図る</p> | <p>(1) ア① 全教職員による生活指導体制を確立し、指導事例に即応し、良好な学習環境を維持する ② 規範意識、社会性育成のための講座等の指導機会を適宜設け、主体的に社会人としてのマナーを獲得させる ③ 高校生活支援カードを活用し、家庭および中学校・外部機関と連携を進め、きめ細かい支援を充実させる</p> <p>(2) ア① 部活動を活性化、注目される成果をあげ、生徒の活動参加を促す ② 秋季発表大会などの成果発表機会に積極的に参加し、生徒の能力を引き出す</p> | <p>(1) ア① 落ち着いた雰囲気为学校づくりにより進める。(生徒指導に納得できるという生徒評価をH27年度の72.4%から78%以上とする) ② 欠席の多い者、中途退学者の減少(欠席の多い生徒30名以下、年間退学者平成27年度14名を13名以内)、大幅に減少した懲戒件数(平成27年度12件)を維持する。 ③ 中学校・外部機関との連携強化拡大(中高連絡会参加・学校訪問実施を20校以上とし本校も教育内容を周知する)</p> <p>(2) ア① 部活動参加生徒を増加させるとともに、質的向上を図る(定通実業総体総合3位以内をめざす) ② 秋季発表大会の生活体験発表、舞台発表、展示発表に4名以上参加する</p> | <p>(1) ア① 生徒指導に納得できるという生徒評価は77.3%となった(○) ② 30日以上欠席した生徒は30名、年間退学者は10名となった。また懲戒件数は7件となった(○) ③ 学校訪問実施を35校に行った(○)</p> <p>(2) ア① 定通実業総体において総合3位となった(○) ② 秋季発表大会の展示発表にのべ20名が出展した(○)</p> |
| <p>3 誇りをもてる学校づくり</p> | <p>(1) 地域連携を進め、学校への高い評価を獲得 ア 生徒による地域活動の実施、公開講座の実施</p> <p>(2) 学校の取り組みを広報 ア 地域での広報を積極的に展開する</p> <p>3) 優れた教育環境の提供 ア 生徒のニーズに合致した特色ある教育課程と優れた指導体制づくり</p> <p>イ 安全安心な学校づくり</p> | <p>(1) ア① 生徒による学校周辺巡回清掃等の地域連携活動を実施 ② 夏休み工作教室を、希望があれば出張教室にするなど拡大・充実する ③ 周辺地域公共機関への実習作品の寄贈をすすめる</p> <p>(2) ア① 学校行事を、保護者・地域に公開し、広報を実施する ② 保護者・生徒のニーズに合致した学校ホームページの改善</p> <p>(3) ア① 工業系科目の充実を図り、生徒意欲を持って取り組める教育課程の再編成をすすめる ② 授業公開、研究授業参加、専門研修派遣を実施し、授業力の向上と、指導内容の刷新を図り、優れた学習環境を実現する ③ 系列会議で生徒状況の把握、授業の工夫の交流などを進めてゆく。</p> <p>イ① 防犯防災訓練、交通安全教育及び研修の実施 ② 安全点検の実施</p> | <p>(1) ア① 地域連携活動を年間通じて実施する(年間3回以上)(地域や保護者とかかわる機会があるという生徒評価をH27年度の59.5%から65%以上とする) ② 地域小学生対象の工作教室をHPで公募の上実施する。また訪問教室を実施する。(参加者数のべ20名以上とする) ③ 地域機関への作品寄贈を3件以上実施する</p> <p>(2) ア① 体育祭、文化祭への保護者などの参加を増やす。(のべ50名以上)(授業参観など学校行事に参加したという保護者評価をH27年度の42.9%から55%以上とする) ② HPの更新を月2回以上(年48回以上)行う。またブログでの情報発信を行う</p> <p>(3) ア① 教育課程の見直しを進め、現指導体制の再編成の実現(本校には他校にない特徴があるという生徒評価をH27年度の73.7%から80%以上とする) ② 授業公開の実施、研修への派遣(3名の研修派遣) ③ 若手教員を中心とした研究授業を年2回以上実施する。また、公開研究授業を実施する</p> <p>イ① 年3回の生徒向け訓練、講習の実施及び心肺蘇生法の教員研修の実施 ② 年2回の安全点検及び産業医を伴った巡回点検の実施</p> | <p>(1) ア① 体育祭、公開講座、文化祭の3回、地域連携活動を実施したが、地域や保護者とかかわる機会があるという生徒評価は57.4%にとどまった(△) ② 地域の2校の小学校で工作教室を実施し、参加者数計20名となった(○) ③ 地域の2校の中学校に木製ベンチを計24台寄贈した(△)</p> <p>(2) ア① 体育祭、文化祭等学校行事への保護者の参加は計45名となった。授業参観など学校行事に参加したという保護者評価は54.9%となった(△) ② HPの更新は月平均3回行った(○)</p> <p>(3) ア① 本校には他校にない特徴があるという生徒評価は75.0%となった(△) ② 授業公開の実施とともに教育センター研修への派遣は10名となった(○) ③ パッケージ研修Ⅱを通じて研究授業を年3回実施した。公開研究授業期間も設定した(○)</p> <p>イ① 生徒向け訓練、講習は3回実施したが、心肺蘇生法の教員研修は今年度実施しなかった(△) ② 安全点検及び産業医を伴った巡回点検を2回ずつ実施した(○)</p> |